

## 経営 コンサルタント



### コンサルタントって怪しい職業?!

新聞やニュースを見ていると、悪事を働いた人の職業が「〇〇コンサルタント」という名前だったり、あるいは噂話の中で「コンサルタントって怪しいよねー」といった話が出てきたりすることはありませんか？ もしあなたが「コンサルタントは怪しい!」と思っているなら、それは「誤解」です。

コンサルタントは英語のconsult(相談する)という単語に関係があって、そのまま日本語に訳せば「相談相手」という意味になります。つまり、経営コンサルタントというのは、会社を経営するときに出てくる悩みごとを相談する相手、ということになります。決して怪しい職業ではありませんよ。

### 経営コンサルタントという資格があるの?

「経営コンサルタント」という資格は残念ながらありません。つまり、「自分は経営コンサルタントですよ」と名乗っている人は、勝手にそう

名乗っているだけなので、前述の通りちょっと怪しいふうに思われてしまうのかもしれませんがね。ただ、「経営コンサルタントの国家資格」と呼ばれている、違う名前の資格ならあります。それは「中小企業診断士」という資格です。

名前に「中小企業」という言葉が入っている通り、相談する経営者(社長さん)は中小企業を経営していることを前提にしています。

経営コンサルタントというのは通常、中小企業の社長さんの相談相手であることが多い、ということがこのことからお分かりいただけるかもしれませんね。

### 経営コンサルタントになるにはどうしたらいいの?

経営コンサルタントという仕事は、会社の社長さんの動きに合わせて、経営にまつわるいろいろなことを考えなくてはなりません。例えば「もっとたくさんのお客様に来てもらうためにどんな工夫ができるのか」「製品をより安く作るために何をしたらいいのか」「従業員さんに気

持ちよく働いてもらうためにどんなことをしたらいいのか」「少しお金が足りなくなってきたけどどうやって乗り切ればいいのか」などなど、とにかくたくさんのことを考え、実行しなくてはならないのです。そして、経営コンサルタントは社長さんにアドバイスをする立場ですから、幅広い知識が必要です。ちなみに先ほどお伝えした「中小企業診断士」という資格を取ろうとする場合には、1次試験で7科目の試験に合格する必要があります。それぞれの科目の試験範囲もかなり広く、経営学はもちろん、法律・経済・国の施策などについて勉強しなくてはなりません。

ただ、私の経験から言えば、いろいろな知識以上に「実際の仕事の経験」が大切ではないかと思います。社長さんの立場やお客様の立場、そして従業員どうしの思いやりなど、実際の仕事を通じて学ぶことはたくさんあります。

学生時代には、アルバイトをするだけでなく、親御さんの職業のことを聞いたり職場を見学させてもらったりすればいろいろと気づくこともあるかもしれません。そして何より、学生時代にしか経験できないものとして大切なもの、それが学校行事や学校生活そのもの。「みんなで力を合わせる」ことの大切さを、学校での毎日で十分経験しておいてほしいと願っています。



### やってみて良かったと思う瞬間、それは…

経営コンサルタントは、社長さんが何かを決断するために、その材料を提供するのが仕事になります。例えば、「今度、1億円の大きな機械を買おうかどうしようか迷ってるんだけど…」という社長さんに、その機械を買った時のメリットとデメリットを分かりやすく資料にまとめたり、1億円というお金を工面する方法を示したり、もしお金を借りなくてはならないのであればそのお金をどうやって返していくのかをアドバイスしたりしながら、結果的に社長さんが「よし、買おう!」あるいは「やっぱりやめておこう」と決断するところまで持っていくのがコンサルタントです。時には判断材料が不十分のままに決断してしまっただけで失敗する。ということもあるので、そんなときには本当に申し訳なく思って落ち込んでしまうこともあります。が、逆に自分のアドバイスで決断がうまくいって、「君のおかげで本当に助かったよ」と言われることももちろんあります。そんなときには「この職業に就いて本当に良かった」と思います。会社経営の中のとても大切な場面において、まさに「運命共同体」のように活動できるこの職業は本当にやりがいのある素晴らしい仕事だと思います。

大阪には元気な中小企業がたくさんあります。その一方で、元気を失っている企業も少なからず存在しています。中小企業の社長さんが今よりもっと元気に頑張ってもらえるよう、私たちは知恵を絞り、手足を動かしながら今日も飛び回っているのです。

以上